

ひな人形と初凧展

「女の子の節句・男の子の節句」

3月3日の上巳の節句(ひな祭り)と5月5日の端午の節句(こどもの日)は、私たちにとって親しみの深い祝い日です。一般的に3月の節句は女の子、5月の節句は男の子の祭りと考えられ、現在でも健やかな子どもたちの成長を祝う日として全国各地で様々な行事が盛大に行われています。田原市内においては、ひな祭りにひな人形だけではなく、男の子のために天神人形を飾る習慣があり、さらにこどもの日の頃には一般的な鎧兜や武者人形を飾ることに加え、健やかな子どもの成長を願い「初凧」を揚げる行事も行われます。

今回の展示では、江戸時代から現代に至る、ひな人形、天神人形や今年作られた初凧をご覧いただけます。これらの展示物は田原市内の節句の祝い方の特徴を示すとともに、子どもの健やかな成長を願う心を示しています。



親王飾り 天保6(1835)年



御殿飾り 昭和3(1928)年



初凧(渡辺綱)



初凧(清少納言)



初凧(武田信玄)

初凧

今年制作され贈られる初凧を展示します。

田原の初凧は、江戸時代に男の子が生まれた翌年の端午の節句に親戚などから贈られた祝い凧を揚げ、その子の健やかな成長と家門繁栄を願ったのが始まりです。子どもの成長と将来の飛翔への願いは現在も脈々と受け継がれ、毎年5月の第4土曜日には「初凧祈願祭」が開催されます。武者絵、歌舞伎絵などが描かれた華やかな初凧を大空に揚げ、家族揃って子どものお祝いをするのです。

ひな人形

市内に伝わったおひな様などを展示します。

この地方で、ひな祭りにひな人形を飾る習慣が一般化したのは江戸時代後半であり、明治中頃からは男ひな、女ひなが一対となった親王飾りひな人形が飾られるとともに、素朴な味わいのある土人形も愛されました。しかし大正の末頃には、豪華な御殿飾りのひな人形が登場し、さらに戦後の高度成長期には現在の屏風段飾りひな人形が主流となって現在にいたっています。

令和2年 2月8日(土) → 3月22日(日)

場所 ● 田原市博物館企画展示室1

開館時間 ● 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 ● 月曜日(月曜日が休日の場合は、その翌日)

観覧料 ● 一般310円(240円)、小中学生以下無料

※()は20名以上の団体料金/毎土曜日は高校生も無料

主催 ● 田原市博物館、田原凧保存会

田原市博物館

〒441-3421

愛知県田原市田原町巴江11-1

TEL 0531-22-1720

http://www.taharamuseum.gr.jp

- JR・名鉄「豊橋」駅から豊橋鉄道渥美線乗車「三河田原」駅下車、徒歩15分(田原城跡内)
- 豊鉄バス伊良湖本線・支線「田原堂町」下車、徒歩10分
- 田原市ぐるりんバス「博物館入口」下車、徒歩3分

同時開催
華椿系画家の肖像画
特別展示室



田原まちなか雛祭りめぐり 観覧無料

はなとき通りから田原駅前通り線沿いの田原のまちなかの店舗に、様々なお雛様やつるし飾り等が展示されます。

【展示期間】2月1日(土)～3月8日(日)

